

## 平成30年3月期決算について

- ・ 営業収入 54,740百万円、営業利益 5,793百万円、当期純利益 3,728百万円
- ・ 営業利益率 10.6%
- ・ 5期連続で増収、黒字を達成

Peach Aviation 株式会社（以下:Peach、代表取締役 CEO:井上 慎一）は、本日、平成30年3月期の決算を取りまとめました。

営業収入は54,740百万円(前期実績:51,709百万円)、営業利益は5,793百万円(前期実績:6,302百万円)当期純利益は3,728百万円(前期実績:4,944百万円)となり、5期連続で増収、黒字を達成しました。

当期における営業利益率は10.6%、平均搭乗率は86.9%(有償ベース)、有償旅客数は約512万人でした。

代表取締役 CEO の井上 慎一は「2017年度も国内外の多くのお客様にご利用いただき、5期連続の黒字を達成することができました。日頃から Peach をサポートいただいている皆様に心より感謝申し上げます。昨年度は、仙台空港の拠点化や新潟線の就航など、国際線を含む地方からの路線拡大で地方創生を加速させてまいりました。今年度中には新千歳空港を拠点空港にすることで、日本列島を縦断する形で拠点空港を置くことになり、Peach を使うインバウンドのお客様が南北に移動できる体制が整います。Peach はこれからも政府が掲げる2020年の訪日旅客4000万人、そして2030年の6000万人達成に向けて、日本のインバウンド需要を牽引してまいります。また、今年度から2019年度にかけてバニラエアを統合しますが、これまで以上に Peach らしさ、独自性を発揮し、日本発のアジアのリーディングLCCを目指し、日本とアジアの空を盛り上げてまいります」と述べています。

Peach は、2020年以降50機を超える機材と、国内・国際線合わせて50路線以上の規模で、日本とアジアをつなぐ路線ネットワークをさらに拡充し、アジアのかけ橋を目指してまいります。

【損益計算書】平成30年3月期の業績(平成29年4月1日～平成30年3月31日、単位:百万円)

科 目	当事業年度	前事業年度	対前期比
営業収入	54,740	51,709	105.9%
営業利益	5,793	6,302	91.9%
経常利益	5,677	5,387	105.4%
当期純利益	3,728	4,944	75.4%

Peachについて([www.flypeach.com](http://www.flypeach.com))

Peach は、2012年3月に関西空港を拠点として運航を開始しました。2014年7月には那覇空港、2017年9月には仙台空港を関西空港に次ぐ拠点空港としました。現在、20機の機材で、国内線15路線、国際線15路線に就航し1日あたり最大約100便以上を運航するとともに、13,000人以上のお客様にご利用いただいております。さらに、2018年8月1日から大阪(関西)ー釧路線を就航させるほか、2018年度内に新千歳空港を拠点空港とする予定です。